

学位論文評価基準

【修士（博士前期）課程】

修士（博士前期）課程の学位論文審査は、薬学研究科における学位授与の方針（ディプロマポリシー）に基づき、公開発表会での発表ならびに提出された論文について、主査1名および副査2名が以下の評価基準から学位審査を行う。

- ① 問題意識が明確で、課題設定が適切に表現されていること。
- ② 事実調査や文献資料などの探索が十分に行われていること。
- ③ 先行研究が適切に検討・吟味されていること。
- ④ 研究倫理に関する諸規定や実験実施上の諸規定を遵守していること。
- ⑤ 実験データや調査結果等が、十分に得られていること。
- ⑥ 研究結果についての整理と解析が十分に行われていること。
- ⑦ 結果に基づく仮説や結論の展開が論理的で分かりやすく行われていること。

【博士（博士後期）課程および論文博士】

博士（博士後期）課程ならびに論文博士の学位論文審査は、薬学研究科における学位授与の方針（ディプロマポリシー）に基づき、公開発表会での発表について、以下の評価基準から研究科委員会で予備審査を行う。この予備審査で論文提出相当と判定された場合は、その後提出された学位論文について、審査委員会（主査1名、副査3名）が以下の評価基準からさらに詳細な学位審査を行う。

なお、学位申請条件等は、学生便覧掲載の「薬学研究科（課程博士・論文博士）の学位予備審査申請基準に関する申合せ」および「課程博士の学位（博士）論文審査基準」に記載されている。

- ① 問題意識が明確で、課題設定が適切で独創的であること。
- ② 事実調査や文献資料などの探索が十分に行われていること。
- ③ 先行研究が適切に検討・吟味されていること。
- ④ 研究倫理に関する諸規定や実験実施上の諸規定を遵守していること。
- ⑤ 実験データや調査結果等が、論理展開に十分な質と量で得られていること。
- ⑥ 研究結果についての整理と解析が十分に行われていること。
- ⑦ 結果に基づく仮説や結論の展開が明確で、論理的であること。
- ⑧ 論文の内容に独創性と新規性があること。
- ⑨ 当該分野の学術の進展や社会への貢献が期待できること。